



一般質問

第3回定例会の主な質問内容は次のとおりです。
なお質問の詳細は、熊本市議会ホームページの会議録等をご覧ください。

公明党



藤岡 照代議員

質問 1

復興需要後の中小・零細企業支援及び活性化
熊本経済が真に本格的復興を果たしていく上で、経済基盤の弱い中小・零細企業をいかに支援していくのか。

答弁

事業所へ専門家を派遣し、経営状況等の適切な診断や助言を行い、経営者が抱える様々な課題の解決に向け、きめ細かな支援を行う。

質問 2

新市民病院の在宅重症心身障がい児支援策

高度な専門性を有する政策医療機関として、在宅の重症心身障がい児とその家族に対する支援の取り組みは。

答弁

市民病院の再建後は、ご家族の肉体的、精神的な負担軽減のため一時的に家族に代わり療養を行う「レスパイトケア」に取り組む。



共産党



山部 洋史議員

質問 1

熊本地震、被災者支援制度の延長を

国保・介護・後期高齢者医療の保険料減免や国保医療費の窓口負担免除、及び仮設住宅の入居期間の延長を。

答弁

各制度の減免等については、被災者個々の状況に応じて、丁寧な対応を行っていくとともに、国や県に対し必要な支援を求めていく。



質問 2

国民健康保険料の引き下げについて

政令市一高い負担を軽減するためにも、一般会計繰り入れを増やし、国にも国庫負担の引き上げを求めるべき。

答弁

繰入金は、国保制度改革による影響等を踏まえ平成30年度当初予算に向け検討する。なお、国庫負担引き上げは引続き要望していく。

自民党



高本 一臣議員

質問 1

地方自治における二代表制のあるべき姿は

市長と議会による二代表制は、適切な緊張感と距離感を持って連携していくことが望ましいが、市長の見解は。

答弁

双方が日頃から十分に連携を図りながら、公の場における議論を通して市民のためによりよい市政を実現していくことが望ましい。

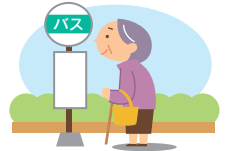
質問 2

さくらカードの方向性

さくらカードを持続可能な制度とするため、そのあり方を検討する時期だと判断するが、今後の方向性は。

答弁

利用状況分析、市民アンケート調査等を踏まえ、他都市の制度も参考にしつつ事業のあり方について様々な観点から検討していく。



市民連合



上田 芳裕議員

質問 1

仮設住宅入居者の恒久的な住宅確保に向けて

入居期限が迫るみなしを含む仮設住宅入居者の恒久的な住宅確保や災害公営住宅拡充への取り組みは。

答弁

現在実施中の伴走型住まい確保支援の調査により、入居者の意向を的確に把握するとともに、住宅整備についても検討していく。

質問 2

顕在化する労働力不足への施策展開

人口減少による労働力不足に対し、高齢者雇用の施策拡充とシルバー人材センターの活用は。

答弁

高齢者を積極的に受け入れる企業を地場企業 PR サイトで掲載。また、シルバー人材センターの活動を支援し、働きやすい環境づくりを推進していく。



公明党



園川 良二議員

質問 1

市電の延伸による影響について

現下の都市圏交通問題や将来の財政運営を踏まえ、市電延伸がもたらす道路渋滞緩和や地域経済への影響等は。

答弁

市電延伸により、渋滞緩和や環境負荷低減を図るとともに、沿線への居住促進や中心部へのアクセス強化等まちづくりにも寄与する。

質問 2

植木土地区画整理事業の早期方針決定を

住民意向調査を早期に取りまとめ、区域・事業手法の見直し等を検討し、区役所と一体となったまちづくりの実現を。

答弁

都市計画の見直しや都市基盤の整備方法等について、関係部署による庁内検討会議を設け、出来る限り早く今後の方向性を検討する。



市民連合



田上 辰也議員

質問 1

救急医療情報キット「命のボタン」について

緊急時に「命のボタン」は有用な情報として活用できるが、多くの市民にはまだ知られていない。今後どうする？

答弁

命のボタンにより、円滑な搬送に繋がった事例等もある。今後も熊本市社会福祉協議会を通し、更に事業の有効性を周知していく。

質問 2

市電の延伸は新市民病院への乗り入れを

市電延伸を病院再開に間に合わせ、病院利用者が雨に濡れないよう、市電の病院乗り入れができないか。

答弁

市民病院開業までの実現は困難であるが、市民病院利用者の利便性向上に向けては、今後具体的に検討する中で考慮していく。



(※1) 命のボタン…一人暮らし等のお年寄りが、ボタンの中に健康に関する情報を入れて冷蔵庫等に保管し、「もしも」の時に救急隊員等が確認し適切な処置を行うもので、主に校区社会福祉協議会で取り組まれている。

平成28年度決算の概要

平成28年度における熊本市の一般会計決算は、歳入が3,678億円（前年度比プラス594億円）、歳出が3,573億円（前年度比プラス539億円）となり、いずれも過去最高額となりました。

歳入と歳出を単純に差し引くと105億円の黒字の計算になりますが、翌年度へ繰り越すべき財源が58億円あり、差し引いて考えると、実質収支47億円の黒字となりました。この黒字は、平成29年度に繰り越され、歳入の一部となります。

一般会計・特別会計

会計名	収入総額	支出総額	収入支出差引額
一般会計	3,678億3,202万円	3,573億3,864万円	104億9,338万円
特別会計	2,148億5,264万円	2,166億2,838万円	△17億7,574万円
合計	5,826億8,466万円	5,739億6,702万円	87億1,764万円

企業会計

会計名	収入総額	支出総額	収入支出差引額
病院事業会計	64億9,015万円	103億1,164万円	△38億2,149万円
水道事業会計	131億9,063万円	117億2,705万円	14億6,358万円
下水道事業会計	199億1,785万円	189億8,952万円	9億2,833万円
工業用水道事業会計	939万円	939万円	0万円
交通事業会計	22億2,061万円	20億937万円	2億1,124万円
企業会計合計	418億2,863万円	430億4,697万円	△12億1,834万円

